

第1回岐阜県高校教育改革推進会議 議事概要

日 時	令和8年9月24日（木） 10：00 ～ 11：45
場 所	県庁 20 階 2003・2004 会議室
出席者	<委員> 11 名 芥川祐征 副座長、加納博明 委員、川崎保典 委員、川島政樹 委員、 篠田花子 委員、中川敬三 委員、益子典文 座長、水川和彦 委員、 村瀬尚子 委員、山内敏之 委員、山田健太郎 委員 （50 音順） <県> 17 名 教育長、副教育長、教育次長、義務教育総括監、教育総務課長 他

会議の概要
◆ 意見聴取 「岐阜県高校教育改革実行計画の骨子案について」

※【○：委員】

◇ 目指す姿・理念について

- 2040 年に向けた教育環境の在り方を考える機会として捉え、子どもの数の減少だけでなく、社会の変化に適応した教育システムを構築していくことが必要である。
- 「あの人のようになりたい」と思える人との出会いを広げることが、生徒が主体的に学び、成長するきっかけになる。
- 偏差値や知識量だけで測ることのできない力を育成することが重要であり、実社会で活躍できる力をどのように育むかを検討する必要がある。
- AI 時代を見据え、人と協働する力や共感する力など、人間ならではの力を育む視点が必要である。
- 高校教育だけでなく、義務教育段階との接続や、生涯にわたる学びや成長の中で高校教育をどのように位置付けるかという視点が必要である。

◇ 柱1（課題1「付加価値の高い専門人材の育成」）について

- 専門高校においては、高度な資格や専門知識だけでなく、人間力や課題解決力、社会性を育むことが重要である。

- 企業や大学等と連携した実践的な学びを通して、地域産業を支える人材育成を進める必要がある。
- 本県の専門高校が持つ高い教育力や特色は大きな強みであり、その魅力を発信しながら一層活用していくべきである。
- 工業分野だけでなく、農業分野等も含めた人材育成の視点が必要である。
- 学校だけに負担を求めるのではなく、企業や地域と学校をつなぐコーディネーターの役割が重要である。
- AI やデジタル技術を実際に活用する経験を通じて、社会や産業の変化に対応できる力を育成することが必要である。

◇ 柱2（課題2「次世代を担う理数系人材の育成」）について

- 文系・理系にとらわれない学びを進め、理数系分野への興味や関心を高めることが重要である。
- 理数系人材育成に当たっては、理数系分野で活躍する人との出会いや、将来の進路を具体的にイメージできる機会が必要である。
- 探究的・実践的な学びや、大学・企業等と連携した学びを一層充実させる必要がある。
- AI やデジタル技術を活用して課題を解決する力を育成するとともに、主体的に学ぶ力を養うことが重要である。
- 女子生徒が理系分野を選択しやすい環境づくりやロールモデルの提示が重要である。
- 文系・理系という枠組みだけでなく、社会で求められる幅広い資質・能力を育成する必要がある。

◇ 柱3（課題3「多様な学習ニーズへの対応」）について

- 不登校生徒の増加を踏まえ、多様な学びの場や学び直しの機会を充実させる必要がある。
- 定時制・通信制教育の充実や学習支援体制の強化が重要である。
- 誰もが、どこからでも、どのタイミングからでも学び直しに挑戦できる環境づくりが必要である。
- 「学校に来られるかどうか」だけでなく、「どのように学び続けることができるか」という視点で支援を考えることが重要である。

- 不登校だった生徒は「本当は学校に行きたかった」と言う。生徒一人一人が安心して学び続けることができる環境づくりや、多様な困難を抱える生徒への支援の充実が必要である。
- 最も大切なのは、高校卒業後の生活であろう。高校卒業後に子どもたちが一人で自走できるように育てる教育機関が必要である。子どもたちの実態は様々であり、本県の教育改革の拠点となった華陽フロンティア高校のような学校と連携し、その取組の成果を他校も取り入れ、不登校の生徒の学びをサポートする体制を整備していったらどうか。
- 遠隔教育や学校間連携などを活用し、多様な学びを支える仕組みづくりを進める必要がある。

◇ 柱４（改革実現のための基盤整備）について

- 義務教育段階から高校教育までを見通した学びの構築が必要である。
- 高校教育改革は高校だけで完結するものではなく、義務教育との接続も含めて考える必要がある。
- 高校入試についても、思考力・判断力・表現力等を適切に評価する観点から検討が必要である。
- 地域、企業、大学等との連携を支える仕組みやコーディネート機能の充実が重要である。
- 地域による教育機会の差が生じないように、学習環境や教育機会の確保に配慮する必要がある。
- 少子化が進む中であっても、生徒の学びの機会と教育の質を両立させることが重要である。

◇ その他

- 生徒が自ら進路を選択できるよう、高校や大学の学びを実際に知る機会を充実させることが重要である。
- 費用対効果の視点も重要だが、教育には投資が必要であり、理想論であっても教育政策は理想を突き詰めるべきではないか。
- 「点数で学校を選ぶ」のではなく、「どのような学びができるか」で学校を選ぶことができる環境づくりが望ましい。
- 学校だけでなく、地域社会全体で子どもたちの学びを支える体制づくりが必要である。

- 高校教育を、生涯学習や社会人の学び直しまで含めた全体の中で捉える視点が必要である。
- 高校教育を取り巻く環境が大きく変化する中、生涯にわたって学び続ける力を育むことが一層重要になる。